

トンネルスキャナによる トンネル覆工面検査

【概要】

トンネルの全般検査の近接目視に代わる新しい検査方式として、トロ等の車両に搭載したラインセンサカメラにより、トンネル覆工面を連続的に撮影するトンネルスキャナを開発しました。トンネル断面に応じて、複数のカメラを最適な位置に配置し、高精度の全周展開画像を作成します。

【特徴】

- 撮影速度は20km/h程度と高速で、単線トンネルの場合一回の走行で全断面撮影が完了します。
- 照明位置やフォーカス合わせ等、調整時間の短縮を図りました。これにより短い作業間合いでも効率よく撮影作業を実施します。
- 一般的な撮影解像度は0.5~1.0mm/画素程度ですが、要求に応じて解像度を調整して撮影します。
- 撮影並びに画像処理は汎用装置を使用しているので、PCや周辺機器の性能向上の恩恵を受けられ、費用対効果に優れています。
- 鉄道構造物維持管理標準・同解説(トンネル編)に、通常全般検査に代えてよい方法としてトンネルスキャナが挙げられています。

付属表 8.3 覆工表面を連続的に撮影・記録するシステム等の例				
平成19年1月	手 法	概 要	主な仕様	適用実績
鉄道構造物等 維持管理標準・同解説(構造物編)			15 km/h(単線) 27 km/h(複線、片側) 幅1 mm のひび割れ検出	JR 東海(トンネラス) ²⁰ ・1999 年度～稼働 ・在来線
▶ トンネル	ラインセンサカメラ (連続走査画像)	走行しながら壁面を走査して画像を得、連続走査画像から展開図を作成	10 km/h 幅1 mm のひび割れ検出	JR 北海道 ²¹ ・2002 年度～稼働
国土交通省鉄道局 鉄道総合技術研究所*			10 km/h 程度 0.5~1 mm の解像度 ※上記よりも簡易な撮影システム	鉄道総研(トンネルスキャナ) ²² ・2004 年度～稼働 ・民鉄等

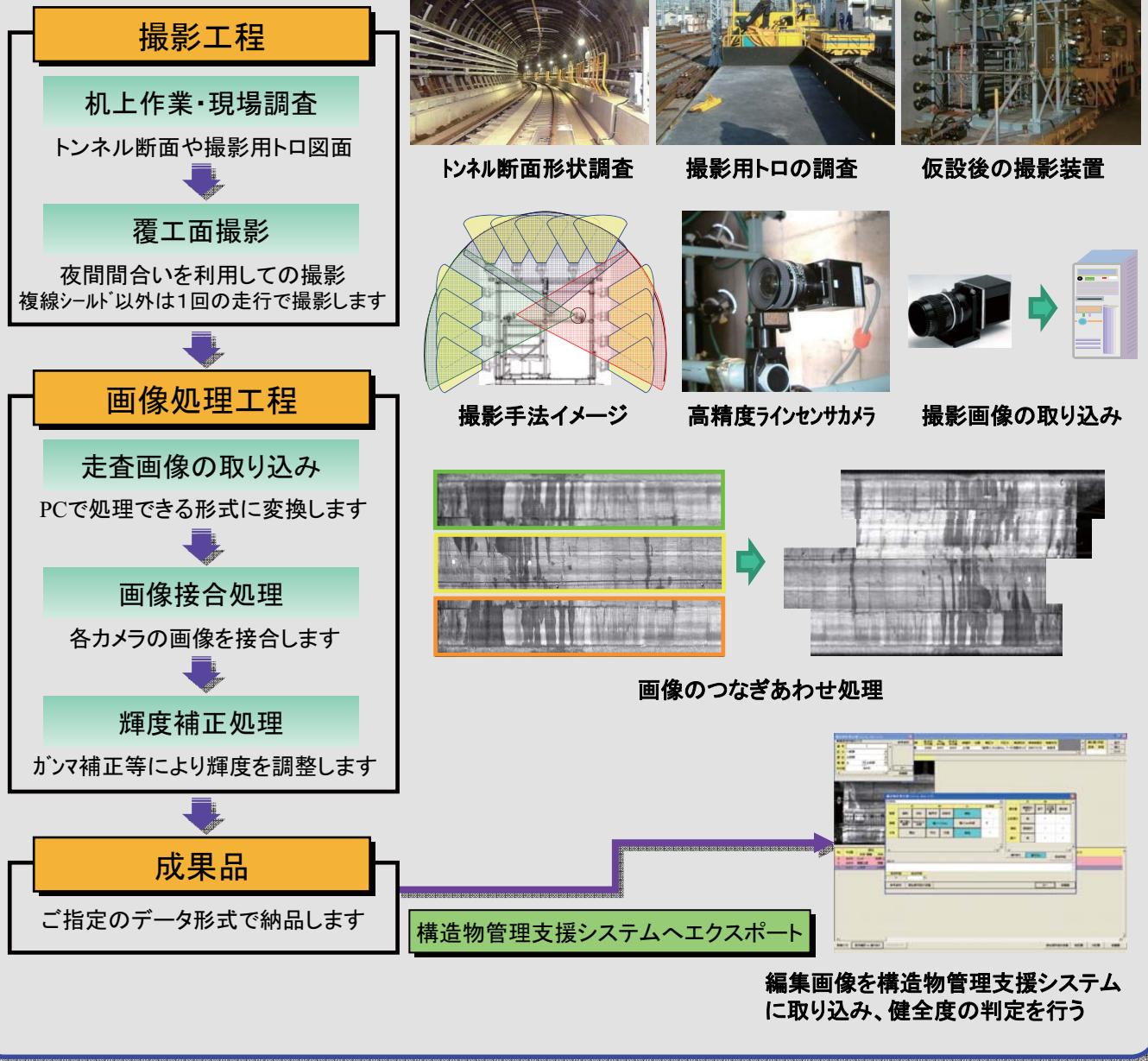
【用途（展開、導入例）】

通常全般検査(近接目視)に代わる高精度、高効率な検査手法として導入

★撮影実績事業者（略称、敬称略）

- 阪神電鉄
- 阪急電鉄
- 京阪電鉄
- 神戸市交通局
- 北神急行電鉄
- 泉北高速鉄道
- 北大阪急行電鉄
- つくばエクスプレス

◆撮影・画像処理



◆撮影工数

	作業工数	特徴
撮影工程	1晩につき 3~4人 ※トンネル形状により変動 車両運転操作者は除く	1晩で20km以上撮影可能です
画像処理工程	5 ~ 20人日 ※トンネル延長距離により変動	トンネル画像閲覧ソフトウェア も付属しています